

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A)

昭63-146592

⑫ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)6月18日

H 04 N 17/00
7/16

M-6668-5C
8321-5C

審査請求 有 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 テレビ・コマーシャル効果調査システム

⑮ 特 願 昭61-293045

⑯ 出 願 昭61(1986)12月9日

⑰ 発 明 者 木 戸 茂 東京都中央区銀座2丁目16番7号 株式会社ビデオ・リサーチ内

⑱ 発 明 者 八 木 滋 東京都中央区銀座2丁目16番7号 株式会社ビデオ・リサーチ内

⑲ 発 明 者 高 森 茂 東京都中央区銀座2丁目16番7号 株式会社ビデオ・リサーチ内

⑳ 出 願 人 株式会社 ビデオ・リサーチ 東京都中央区銀座2丁目16番7号

㉑ 代 理 人 弁理士 高山 道夫 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

テレビ・コマーシャル効果調査システム

2. 特許請求の範囲

テレビの視聴チャンネルおよび同期信号を検出するテレビ・センサと、データ入力を行うキーパットと、商品のバーコードを読み取るホーム・スキャナと、前記テレビ・センサ、キーパット、ホーム・スキャナと有線もしくは無線により結合された測定器本体とを被験者宅に設置し、通信回線を介してセンサから前記測定器本体にテスト・コマーシャルおよび質問の映像、音声にかかるデータを予め供給し、前記テレビの視聴状態に応じて前記テレビにテスト・コマーシャルおよび必要な質問の映像、音声を提示し、前記テレビ・センサ、キーパット、ホーム・スキャナより前記測定器本体を介して被験者にかかるデータを前記センサ側に回収することを持徴としたテレビ・コマーシャル効果調査システム。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はテレビ・コマーシャル効果調査システムに関する。

(従来技術およびその問題点)

従来のテレビ・コマーシャル効果調査は、

①テスト・ルームで被験者にコマーシャルを見せて意見、反応を得る方法。

②それぞれの家庭内で特定のコマーシャルを見てもらい意見を得る方法。

③日常生活の中で自然に視聴したコマーシャルの内容と量を視聴率調査から推測し、その後の買物に対する態度や行動の変化をアンケートで求める方法。

の3つに大別できるが、

(i)上記①の方法は被験者に過度の緊張感を与え、日常生活の中でのコマーシャルに対する反応と同一である保証はない。

(ii)上記②の方法は被験者の協力がなければ実施できないことから、被験者のその時々

都合等により調査に必要な被験者数が確保できない場合、調査結果の信頼性が低下する。

同上記④の方法は⑤の方法よりなおコマーシャルを見る機会が少なくなり、調査結果の信頼性が低下する。

等の欠点があった。

(問題点を解決するための手段)

本発明は上記の点に鑑み提案されたものであり、その目的とするところは、被験者の家庭において自然な状態で自動的に調査が行え、信頼性の高い結果が得られるテレビ・コマーシャル効果調査システムを提供することにある。

本発明は上記の目的を達成するため、テレビの視聴チャンネルおよび同期信号を検出するテレビ・センサと、データ入力を行うキーパットと、商品のバーコードを読み取るホーム・スキャナと、前記テレビ・センサ、キーパット、ホーム・スキャナと有線もしくは無線により結合された測定器本体とを被験者宅に設置し、通信

更に、バーコードを読み取るホームスキャナにより実際の購入商品を調査することにより、テスト・コマーシャルの販売促進効果を測定することができる。

また、テレビの視聴率調査も同時に行い、視聴率測定システムとしても利用可能となっている。

(実施例)

以下、実施例を示す図面に沿って本発明を詳述する。

第1図は本発明のテレビ・コマーシャル効果調査システムの一実施例を示す構成図である。図において、TVは被験者宅のテレビであり、アンテナANTとテレビTVのアンテナ端子との間に測定器本体1が接続されるようになっている。また、テレビTVに近接してテレビ・センサ2が設けられ、テレビ・センサ2の出力は測定器本体1に入力されるようになっている。また、キーパット3とホーム・スキャナ4とが設けられ、測定器本体1と無線もしくは有線によって結合

回線を介してセンタから前記測定器本体にテスト・コマーシャルおよび質問の映像、音声にかかるデータを予め供給し、前記テレビの視聴状態に応じて前記テレビにテスト・コマーシャルおよび必要な質問の映像、音声を提示し、前記テレビ・センサ、キーパット、ホーム・スキャナより前記測定器本体を介して被験者にかかるデータを前記センタ側に回収することを特徴としたテレビ・コマーシャル効果調査システムを要旨としている。

(作用)

本発明では、テスト・コマーシャルを家庭のテレビに自動的に映し出すことにより、極めて自然にテスト・コマーシャルを必要な期間に必要な回数だけ被験者に視聴させることができる。

また、テスト・コマーシャルの視聴後にセンタからテレビ画面と音声とで被験者に質問を行い、被験者にキーパットで回答させることにより、例えば、商品の知名度や購入経路、購入意志等の種々の回答を得ることができる。

されている。なお、テレビ・センサ2と測定器本体1との間についても無線による結合としてもよい。

一方、測定器本体1は光ケーブルの如き通信回線を介してセンタのオンライン・コンピュータ5と接続されており、このオンライン・コンピュータ5は他のオンライン・コンピュータとともにホスト・コンピュータ6に接続されている。また、ホスト・コンピュータ6にはビデオ・メモリ8が設けられると共に、A/D変換部7を介してビデオ・テープ・レコーダVTRが接続されるようになっている。

しかし、センタ側においては、ビデオ・テープ・レコーダVTRでテスト・コマーシャルを再生し、A/D変換部7でデジタル化したデータをホスト・コンピュータ6に入力し、ホスト・コンピュータ6はそのデータをビデオ・メモリ8にストアする。同様に、別装置でビデオ・テープに収録した関連する質問の映像、音声をビデオ・テープ・レコーダVTRから再生し、A/D変

換部7でデジタル化してホスト・コンピュータ8に入力し、ビデオ・メモリ8にストアしておく。そして、オンライン・コンピュータ5と通信回線1とを介して被験者宅の測定器本体1にデータを送信(オンライン伝送)し、デジタル化したテスト・コマーシャル数本と、そのテスト・コマーシャルに関連する質問の映像、音声とを測定器本体1内のビデオ・メモリに予めストアしておく。

一方、被験者宅のテレビTVに設けられたテレビ・センサ2ではテレビTVの視聴チャンネルの検出と同期信号の検出とが行われ、測定器本体1ではテレビTVの視聴状態を監視してセンタのホスト・コンピュータ8と通信を行い、ホスト・コンピュータ8の指令に従って、予めストアしてあるテスト・コマーシャルの信号をアンテナANTから得られる放送波に代えてテレビTVに与え、その提示を行う。

また、必要に応じ質問の提示をテスト・コマーシャルの提示に続いて同様に行い、被験者が

きたデジタル化されたテスト・コマーシャルおよび質問の映像、音声にかかるデータをストアしておくビデオ・メモリ15と、ビデオ・メモリ15のデータをアナログ信号に復元するD/A変換部16と、D/A変換部16により復元された映像、音声の信号をテレビTVで受信可能な高周波信号に変換するためのRF変調部17と、テレビTVのアンテナ端子に供給する信号をアンテナANT側からRF変調部17側に切り換えるスイッチ部18とを測定器本体1は有している。

また、テレビ・センサ2はピックアップPC₁を伴ったチャンネル検出部21と、ピックアップPC₂を伴った同期成形部22とを有している。

しかし、第2図において、テレビ・センサ2はチャンネル検出部21でテレビTVの視聴中のチャンネルを検出し、測定器本体1は常に視聴チャンネルを認知している。また、テレビTVの同期信号をピックアップPC₂で取り出し、同期成形部22で波形成形し、測定器本体1に取り込むようにしている。なお、この同期信号は受信中

リモコン式入力装置であるキーパット3により回答を行うと、そのデータが測定器本体1に入力され、ホスト・コンピュータ8に結果が送出される。なお、ホーム・スキャナ4は被験者が購入した商品のバーコードをスキャンする購入商品の入力装置であり、そのデータは測定器本体1を介してホスト・コンピュータ8に回収され、テスト・コマーシャルと買物行動との関連を与えるデータとして利用される。

次に、第2図は測定器本体1およびテレビ・センサ2の内部構成をより詳細に示したものである。図において、測定器本体1はCPU、時計、提示タイマ等からなるコントローラ10を中心として、通信回線1との対応をとるオンライン・インターフェース11と、テレビ・センサ2との対応をとるセンサ・インターフェース12と、キーパット3との対応をとるキーパット・インターフェース13と、ホーム・スキャナ4との対応をとるホーム・スキャナ・インターフェース14とを有している。また、センタから送られて

のテレビ放送とテスト・コマーシャルとを切り換えるタイミングをとるためと、同期ズレ等による映像の流れを防止するためとに使用される。

一方、センタから予め伝送されたテスト・コマーシャルと質問はビデオ・メモリ15にストアされており、被験者の視聴しているテレビTVへの提示はセンタから通信回線1を介してその部度指令が行われる。すなわち、センタはテレビ視聴中かどうか、およびテスト・コマーシャルを挿入できる局かどうかを判断し、各々の被験者世帯別に適切な指令を行う。

そして、測定器本体1のコントローラ10がセンタから提示時刻、テスト・コマーシャル番号、質問番号の指令を受け取ると、測定器本体1のコントローラ10は提示タイマをセットし、提示準備に入る。

提示時刻になると、テレビTVの同期信号に同期してビデオ・メモリ15からデータを読み出し、D/A変換部16により提示映像と音声とを作成する。RF変調部17はテレビTVの受信チャンネル

に周波数を合わせ、スイッチ部18によりテレビTVのアンテナ端子をRF変調部17側に切り換え、D/A変換部16で作成した提示映像と音声とをテレビTVに提示する。

また、質問のある場合は、引き続き質問内容を提示し、被験者はキーパット3で回答する。キーパット3からの回答はキーパット・インターフェース13を介してコントローラ10が取り込み、センタへデータ伝送する。

また、ホーム・スキャナ4は購入商品のバーコードをスキャンし、ホーム・スキャナ・インターフェース14を介してコントローラ10が取り込み、センタへデータ伝送する。

一方、テレビ・センサ2が検出したテレビTVの視聴チャンネルも同様にセンタへデータ伝送する。

(発明の効果)

以上のように本発明のテレビ・コマーシャル効果調査システムにあっては、テレビの視聴チャンネルおよび同期信号を検出するテレビ・セ

ンサと、データ入力を行うキーパットと、商品のバーコードを読み取るホーム・スキャナと、前記テレビ・センサ、キーパット、ホーム・スキャナと有線もしくは無線により結合された測定器本体とを被験者宅に設置し、通信回線を介してセンタから前記測定器本体にテスト・コマーシャルおよび質問の映像、音声にかかるデータを予め供給し、前記テレビの視聴状態に応じて前記テレビにテスト・コマーシャルおよび必要な質問の映像、音声を提示し、前記テレビ・センサ、キーパット、ホーム・スキャナより前記測定器本体を介して被験者にかかるデータを前記センタ側に回収するようにしたので、被験者の家庭において自然な状態で自動的に調査を行うことができ、信頼性の高い結果が得られる効果がある。

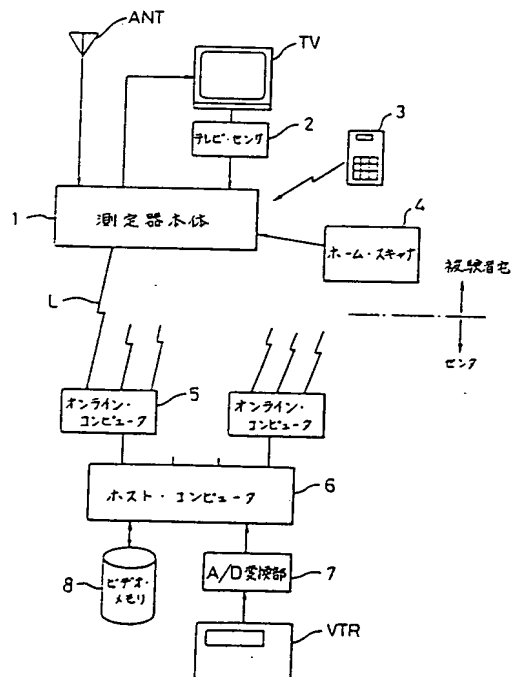
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明のテレビ・コマーシャル効果調査システムの一実施例を示す構成図、第2図は測定器本体およびテレビ・センサの内部の詳細図である。

細図である。

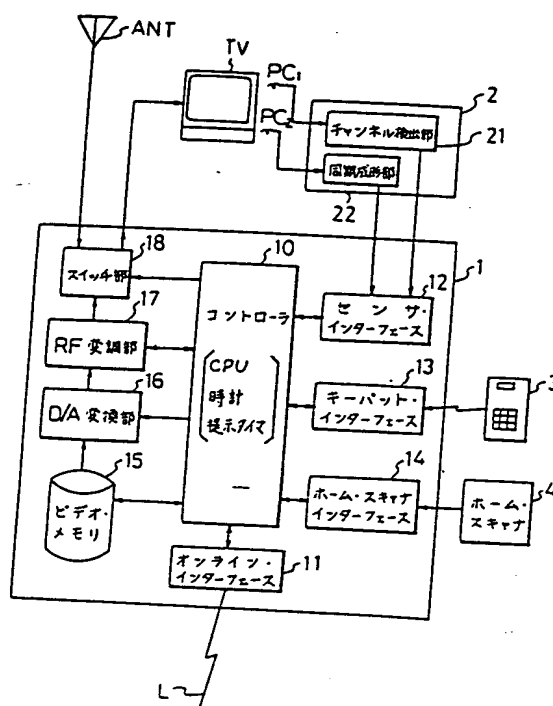
1……測定器本体、10……コントローラ、11……オンライン・インターフェース、12……センサ・インターフェース、13……キーパット・インターフェース、14……ホーム・スキャナ・インターフェース、15……ビデオ・メモリ、16……D/A変換部、17……RF変調部、18……スイッチ部、2……テレビ・センサ、21……チャンネル検出部、22……同期成形部、3……キーパット、4……ホーム・スキャナ、5……オンライン・コンピュータ、6……ホスト・コンピュータ、7……A/D変換部、8……ビデオ・メモリ、TV……テレビ、ANT……アンテナ、VTR……ビデオ・テープ・レコーダ、L……通信回線

第1図



特許出願人 株式会社ビデオ・リサーチ
代理人 弁理士 高山 道夫
ほか1名

第 2 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)